

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 旭有機材株式会社

コード番号 4216 URL <https://www.asahi-yukizai.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 中野 賀津也

問合せ先責任者 (役職名) 管理本部総務部長 (氏名) 亀井 学 (TEL) 03-5826-8820

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績 (2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	47,237	24.1	4,809	158.6	5,059	163.3	3,373	135.0
2021年3月期第3四半期	38,051	△7.0	1,860	△36.8	1,921	△34.9	1,435	△32.5

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 3,877百万円(115.5%) 2021年3月期第3四半期 1,799百万円(△2.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	176.13	—
2021年3月期第3四半期	74.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	72,754	50,146	68.3	2,592.78
2021年3月期	67,732	47,108	68.9	2,436.63

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 49,656百万円 2021年3月期 46,667百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2022年3月期	—	25.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,500	16.7	5,800	70.4	6,000	64.5	3,950	41.7	206.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 — 社(社名) —、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 7 「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期3Q	19,800,400株	2021年3月期	19,800,400株
2022年3月期3Q	648,609株	2021年3月期	648,287株
2022年3月期3Q	19,151,958株	2021年3月期3Q	19,140,342株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項については添付資料P. 3 「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当社グループをとりまく経営環境は、未だ新型コロナウイルス感染症の収束を見通せない中にありますが、当社グループの事業範囲においては、感染拡大防止対策を取りながらも通常の事業活動を行える状況にまで戻ってまいりました。

当第3四半期連結累計期間の国内自動車生産台数は、第2四半期連結会計期間より継続する半導体不足に加えて、新型コロナウイルス感染症による東南アジアからの部品供給停滞の影響を受けて、前年を下回りました。国内の設備投資においては、半導体関連産業は引き続き堅調に推移し、その他の産業でも一部回復基調がみられました。海外においては、半導体関連産業を中心に設備投資が伸長しました。半導体デバイス用途においても、引き続き旺盛な需要が続き、電子材料の需要が伸長しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は47,237百万円(前年同期の売上高は38,051百万円)となり、営業利益は4,809百万円(前年同期の営業利益は1,860百万円)、経常利益は5,059百万円(前年同期の経常利益は1,921百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、3,373百万円(前年同期の親会社株主に帰属する四半期純利益は1,435百万円)となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)および「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)を第1四半期連結会計期間の期首より適用しています。これにより、当第3四半期連結累計期間と比較対象となる前第3四半期連結累計期間の収益認識基準が異なるため、経営成績に関する説明においては前期比増減を記載しておりません。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおりです。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① 管材システム事業

管材システム事業は、樹脂バルブを主力製品として、耐食問題の解決と樹脂管材の機能性を追求した製品開発により樹脂管材市場を拡大することを基本戦略として、お客様のお役に立ちに注力した営業活動を推進しています。

国内向け樹脂バルブ等の基幹製品については、建設資材価格が高騰していることから設備投資に対する慎重姿勢が継続しているものの、コロナ禍からの回復基調が一般設備関連で見られ始めたことや、継続する半導体関連の大型工事件に支えられて、販売が堅調に推移し売上は前年を上回りました。

海外では、米国において半導体関連産業をはじめとした設備投資需要が継続しており、売上は前年を上回りました。また、中国と韓国においても半導体や液晶関連への設備投資による需要増を受けて、売上は前年を大きく上回りました。

半導体製造装置向けのダイマトリックス製品は、日本をはじめ、韓国、台湾、中国向けの販売が伸長したことから、売上は前年を大きく上回りました。

利益面においては、原料高の影響を受けたものの主に海外向けの売上が増加したことに加え円安の影響もあり前年を大きく上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は27,397百万円(前年同期の売上高は22,733百万円)、営業利益は3,533百万円(前年同期の営業利益は1,525百万円)となりました。

② 樹脂事業

素形材用途向けの製品は、国内においてお客様の製造品質や作業環境の改善につながる提案と新規のお取引先様への営業活動を行い、海外においてはお客様の品質要求に合わせた提案活動を継続して推進した結果、売上は前年を上回りました。

発泡材料製品の現場発泡断熱材は、前年から回復基調にあるビル・マンション等の建築需要の取込みに注力した結果、売上が前年を上回りました。トンネル掘削用の固結材は、採用を頂いている工事案件が計画通りに推移しましたが、売上は前年を下回りました。

電子材料用途を主力製品とする高機能樹脂は、半導体の微細化に対応している国内大手レジストメーカー向けの低メタル製品に加え、レガシー半導体向けの製品の需要も引き続き堅調に推移しました。海外では、中国におけるLEDやレガシー半導体向けの需要が堅調に推移したこともあり、売上は前年を大きく上回りました。

利益面においては、原料高や中国における電力供給制限の影響を受けたものの売上が増えたことで前年を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は13,734百万円(前年同期の売上高は11,108百万円)、営業利益は728百万円(前年同期の営業利益は423百万円)となりました。

③ 水処理・資源開発事業

水処理事業は、民間の大型請負工事が完工したこと、また受注している公共工事も順調に進捗したことから、売上は前年を大きく上回りました。

資源開発事業は、手掛けていた地熱開発工事が完工したこと、また温泉設備工事も順調に進捗にしたことから、売上は前年を上回りました。

メンテナンス事業は、第2四半期連結会計期間に引き続き修繕工事の引き合い案件が少なく、一部で前倒し受注があったものの、売上は前年を下回りました。

利益面においては、水処理事業や資源開発事業での売上の増加に加え、固定費の減少により前年に比べ大きく改善しました。

この結果、当セグメントの売上高は6,106百万円(前年同期の売上高は4,210百万円)、営業利益は367百万円(前年同期の営業損失は192百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は72,754百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,022百万円増加しました。これは主に現金及び預金や受取手形、売掛金及び契約資産などの流動資産の増加によるものです。負債は22,608百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,984百万円増加しました。これは主に支払手形及び買掛金などの流動負債の増加によるものです。純資産は50,146百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,038百万円増加しました。これは主に利益剰余金や為替換算調整勘定の増加によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、2021年10月29日に公表しました業績予想を修正いたしました。

なお、当該予想に関する詳細につきましては、本日公表の「2022年3月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,398	12,650
受取手形及び売掛金	13,796	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	15,462
電子記録債権	3,396	4,343
棚卸資産	12,170	12,440
その他	824	1,048
貸倒引当金	△58	△59
流動資産合計	40,526	45,883
固定資産		
有形固定資産		
土地	6,542	6,727
その他(純額)	11,638	11,368
有形固定資産合計	18,180	18,095
無形固定資産		
のれん	1,073	995
その他	1,164	1,109
無形固定資産合計	2,237	2,104
投資その他の資産		
投資有価証券	3,092	2,924
退職給付に係る資産	2,980	2,967
その他	739	805
貸倒引当金	△21	△23
投資その他の資産合計	6,790	6,672
固定資産合計	27,206	26,871
資産合計	67,732	72,754
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,113	6,059
電子記録債務	3,231	4,067
短期借入金	3,588	2,558
未払法人税等	355	1,273
その他	3,648	3,941
流動負債合計	15,935	17,899
固定負債		
長期借入金	216	212
退職給付に係る負債	1,769	1,826
株式給付引当金	41	48
役員株式給付引当金	64	82
長期前受金	685	634
その他	1,914	1,908
固定負債合計	4,689	4,709
負債合計	20,624	22,608
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	8,496	8,496
利益剰余金	32,927	35,462
自己株式	△1,099	△1,099
株主資本合計	45,324	47,858
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	746	659
為替換算調整勘定	167	844
退職給付に係る調整累計額	430	296
その他の包括利益累計額合計	1,343	1,798
非支配株主持分	441	490
純資産合計	47,108	50,146
負債純資産合計	67,732	72,754

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	38,051	47,237
売上原価	25,562	31,363
売上総利益	12,489	15,874
販売費及び一般管理費	10,629	11,065
営業利益	1,860	4,809
営業外収益		
受取利息	8	6
受取配当金	75	112
為替差益	—	77
不動産賃貸料	60	67
出資金運用益	—	4
その他	39	31
営業外収益合計	182	297
営業外費用		
支払利息	19	14
不動産賃貸費用	11	11
為替差損	55	—
出資金評価損	14	—
その他	22	22
営業外費用合計	120	47
経常利益	1,921	5,059
特別利益		
固定資産売却益	7	10
投資有価証券売却益	—	1
特別利益合計	7	11
特別損失		
固定資産除却損	29	38
固定資産売却損	2	—
投資有価証券売却損	—	0
損害補償損失	12	13
事業構造改善費用	—	103
特別損失合計	43	155
税金等調整前四半期純利益	1,886	4,914
法人税等	419	1,499
四半期純利益	1,467	3,415
非支配株主に帰属する四半期純利益	32	42
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,435	3,373

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	1,467	3,415
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	555	△90
為替換算調整勘定	△282	687
退職給付に係る調整額	60	△134
その他の包括利益合計	333	463
四半期包括利益	1,799	3,877
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,774	3,829
非支配株主に係る四半期包括利益	26	49

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社及び国内連結子会社は、従来は請負工事契約に関して、進捗部分について成果の確実性が認められる工事には工事進行基準を、それ以外の工事には工事完成基準を適用しておりました。これを第1四半期連結会計期間より、一定の期間にわたり充足される履行義務は、期間がごく短い工事を除き、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識し、一時点で充足される履行義務は、工事完了時に収益を認識することとしております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の見積りの方法は、見積総原価に対する発生原価の割合(インプット法)で算出しております。履行義務の結果を合理的に測定できない場合は、発生した実際原価の範囲でのみ収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高が921百万円、売上原価は752百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ186百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は123百万円増加しております。

また、収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I. 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	22,733	11,108	4,210	38,051	—	38,051
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注) 2	143	0	2	145	△145	—
計	22,876	11,108	4,212	38,196	△145	38,051
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△))	1,525	423	△192	1,756	104	1,860

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II. 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び損益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額
	管材システム 事業	樹脂事業	水処理・資源 開発事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	27,397	13,734	6,106	47,237	—	47,237
セグメント間の内部売上高 又は振替高(注) 2	122	1	1	125	△125	—
計	27,519	13,736	6,107	47,361	△125	47,237
セグメント利益(営業利益)	3,533	728	367	4,628	181	4,809

(注) 1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配分されない全社費用(主に報告セグメントが負担する一般管理費の配賦差額)であります。

2. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「樹脂事業」セグメントにおいて、フェノール成形材料及びジアリルフタレート成形材料の生産及び販売事業からの撤退を決定したため、当第3四半期連結累計期間において、当該事業用資産について、減損損失を103百万円計上しております。

なお、当該減損損失については、特別損失の「事業構造改善費用」として表示しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「管材システム事業」の売上高は416百万円増加、セグメント利益は135百万円増加し、「樹脂事業」の売上高は504百万円増加、セグメント利益は52百万円増加しております。なお、「水処理・資源開発事業」への影響はありません。